

# The **C**onsortium of **U**niversities in **K**YOTO

Newsletter **No.48**

January 2017

大学コンソーシアム京都 会報



特集

① 大谷大学

特集

② 「学まち連携大学」促進事業

特集

③ 国際事業部の取り組み

大学コンソーシアム京都における障害学生支援事業  
まちづくり事例集

[特集1] 加盟校の紹介

# 大谷大学・大谷大学短期大学部

大谷大学・大谷大学短期大学部では、大学改革の一環として、開学以来、初めてとなる複数学部化構想を発表され、伝統ある文学部に、2018年4月から社会学部と教育学部（共に仮称）の2学部を加えた3学部体制を構想されています。また並行して、グランドデザインに示される「5つの基本方針」を軸に、長期的なキャンパス総合整備計画を実施し、2018年4月のグランドオープンに先駆け、2016年9月には、大谷大学の中央・南エリアの新教室棟「慶間館（きょうもんかん）」の利用を開始されました。大々的な改革は、各大学からも注目を集めています。

改革を続ける大谷大学・大谷大学短期大学部の木越学長に、大学改革の背景、グランドデザインのねらい、そして大学コンソーシアム京都への期待について、お話を伺いました。

木越 康 氏

大谷大学・大谷大学短期大学部  
第28代学長

OTANI UNIVERSITY

## 京都ならではの視点を持った社会と人間像を提示する大学に

**Q 大谷大学という文学部の単科大学というイメージが強くあったのですが、この度、複数学部新設というのはかなり大きな改革だと思います。今回の改革の狙いや背景をお聞かせいただきたいのと、また、学内外の反響も伺いたく思います。**  
[木越康 学長（以下、学長）] 学部を新設しますが、今まで文学部の単科大学として本学が培ってきたものと全く違う分野を立てるわけではありません。また、全く新たな教員をお願いしているわけではないので、そういう意味で言うと、新学部設置による大学の規模拡大ということとは異なります。規模は変えませんが、分野も今ある社会学と教育学の分野を切り出し、社会学部と教育学部にしますので、学問の展開上での苦労はそんなにありません。ただ、文学部の中に社会学や教育学を置いておくことの限界があり、今、それぞれの学生には社会学

と教育学の学位を授与していますので、その整合性を取ることや独自の教育体制を構築することが目的となっています。社会学、教育学にはそれぞれの教育と評価のシステムが必要なので、学部として独立させ、個別の教育評価体制を設けなければいけないというのが理由です。文学部は集大成として卒業論文を課していますが、例えば地域活動をしている学生に、急に論文提出を求めても齟齬が生じるので、新設の学部では卒業研究という形を認めることも考えています。

**Q 取材前に、慶間館（きょうもんかん）を拝見しましたが、以前の雰囲気とはまた変わっていたので、びっくりしました。全面ガラス張りですべての教室の中が見えてしまうようです。教室をガラス張りにされた意図をお聞かせください。**

[学長] ガラス張りの教室で授業を行っていますが、最初は慣れずに疲れました。人が通ると落ち着かない感じがしますし、こちらで授業をしていると向こうの教室が見えますからね。でも今のところ、思ったよりも良い印象です。やはり、勉強している姿が外から見るといえるというのは、学生にとってはいい刺激になるのかもしれません。

新教室棟をつくる前に「文藝塾」と「コミュ・ラボ」という教室があって、そこはまず簡易的にガラスで仕切ってフロアを作りました。「文藝塾」というのは、いろいろな作家を招いて、学生が講義を受けるものです。芥川賞を受賞した作家の人など著名な方が来るので、学生や教員も廊下から見学していました。そのときの感触が良かったので、ガラス張りの教室もいいのではないかなと判断しました。教員も学生も、

見られていると気持ちを引き締まるのではないのでしょうか。  
**Q 新しいグランドデザインをつくりながら、校舎も建て替えられました。その辺は、長期計画として、どのようにリンクさせて、どういう狙いを持って行われていますか。**

[学長] 建物に関して言うと、前の建物が築50年を超えていたので、耐震の問題もあり、計画的な建て替えでした。それに、今回の複数学部化構想を重ねて、新しい大谷大学のイメージとして、建物と新学部というものを全面的に出していきたいと思っています。工事は2018年まで続き、現在は約3分の2ができあがっています。

**Q 「コミュ・ラボ」でも、過疎地域の支援に取り組まれていらっしゃいますね。地域連携を活発にされているという印象がありますが、その辺りに力を入られている理由は何ですか。**

[学長] 誰しも分かっているのが高齢化と、大都市圏への人口流出と、少子化の問題です。本学ではそれに向けた学科やセンターをつくらなければいけないと考えています。今回立ち上げるコミュニティデザイン学科（仮称）は、理念の目玉になりますが、これから将来にわたって絶対に必要な学問と経験を学生に課するために、過疎地域の活性化事業を行います。スタッフも専門の先生方に来ていただくようにしています。

**Q 今後、どのように学生を教育されますか。**

[学長] いろいろな知識とスキルだけ身につけているけれども、何をしたいのかとか、何をすべきなのか分からない、そもそも社会のどこに問題があるのかも分からない主体のことを、私は「物心がついていない」と言っています。物心がつくというのは、場が分かって、背景も分かって、歴史も分かって、自分も分かって、そこで初めて何をすべきかが分かってくるのだと思います。社会や他者に対する関心がないというよりも、関心をつくらせない社会的風潮が、近年はあったのかもしれないですね。ですから、大学として大事なものは、社会がどうか、どういう問題があるのかということを考えてもらって、何が課題の解決なのかということを考え続けることです。そこが、実は、一番大事だと思っています。そういう訓練をしていく中で、「物心がつく」ということを実現していきたいですね。



2016年9月から中央・南エリアの利用をスタートした「慶間館きょうもんかん」  
2018年4月に北エリアが完成し、グランドオープンする

非常にオーソドックスな言い方をしたら、本学は仏教系の大学なので、一体どうなることが人間の幸せなのかということ、きちんと考えてもらわなければいけないと思っています。ただ単に、国内総生産（GDP）を上げることや、国力を増すことだけが人間の幸せであるはずがないので、一体、何をもちて人間の幸せというのかについて総合的に考えるべきだと思います。そして、課題を解決するために声を上げ、行動する人間を育てていきたいと考えています。その1つとして、過疎地域にいるお年寄りをほったらかしにして日本の幸福や豊かさなんてあるはずがないので、現地の悩みや苦しみを共有する人間になっていくとか、そこにずっと携わっていく人間になっていく、あるいは、そういうことを経験した人間に、いろいろな会社や業種で仕事に携わってもらいたいですね。そんな学びが経験できるところに、大谷大学としての意義があるのだと思います。

**Q 学生へのメッセージをお願いします。**

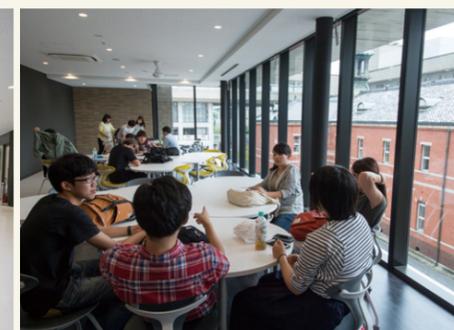
[学長] なるべく人生の深いところを生きてほしいと思います。海の上を泳いで人生を渡っていくのではなくて、下にはものすごく深さがあって、いろいろな世界があることを知ってもらいたい。表面にしか現れないところで満足しては駄目だと思うので、学生にはできるだけ深いところを泳いで



1階中央エントランスに広がる学生ロビー  
「ミニエール・プラザ（愛称）」



開放的な雰囲気の教室（2F～5F）



アクティブラーニングに対応した  
「マルチスペース」を多数配置  
シンボルである源泉館を望み交流ができる

# 大学コンソーシアム京都における障害学生支援事業

近年、障害のある学生の在籍数は年々増加し、また、「障害者差別解消法」が2016年4月から施行されたことを受け、大学は多様な障害学生の支援に携わる担当者の能力向上だけでなく大学の枠を越えた情報共有や連携が求められるなど、障害学生支援への取り組みは重要性を増しています。

そこで今回は、大学コンソーシアム京都が取り組んでいる障害学生支援事業についてご紹介します。

## これまでの取り組み

大学コンソーシアム京都では、2001年度から障害のある学生への支援について検討を重ね、2002年度から加盟校のネットワークとして「障害のある学生支援に関する担当者会議」を組織し、意見交換や勉強会等の場としてきました。

2004年度からは「ノートテイク養成講座」を継続して開講するほか、2015年度からは障害学生支援事業企画検討委員会を設置し、また、「障害のある学生支援に関する担当者会議」を発展させた「関西障害学生支援担当者懇談会」を主催しています。

2016年度は、大学コンソーシアム京都の指定調査課題として、障害学生支援を調査研究のテーマに取り上げています。2017年3月には、調査研究の報告会を開催予定です。詳しくは最終ページの「Information」をご覧ください。



ほしいですね。緩く、すーっと生きて人生を終えていくか、深いところで、いろいろなことを感じながら、いろいろな問題を共有しながら生きていくのかでは全然違うと考えるので、なるべく深く生きてほしい。そうすると、おそらく、簡単に人を排除したり、拒んだりすることが起こらないはずで、相手にも相手の背景や辛さがあることを理解しながら、人と向き合っていくのが大事だと思います。

**Q 貴学には大学コンソーシアム京都の設立当初から関わっていただいています。木越学長には以前は運営委員として、現在は評議委員として関わっていただいています。現在の大学コンソーシアム京都についてのご感想やご要望をお聞かせください。**

**[学長]**やはり、これだけの数の大学が集まっているので、大学として必要とされることは何なのかということ、タイムリーに社会に提示できるようなことがあっていいのかもしれないですね。

特に今、人間教育というのはどこが責任を担ってやっているのかということ、大きな問題です。人間教育の部分、歴史学とか哲学とか、人文社会科学の教育をきちんと確保しなければいけない。ここには大学コンソーシアム京都のような組織があるので、まとまった形のメッセージを出して、東京の大学とは違うアピールをしていくべきだと思います。また、「大学・学生のまち京都」としてみんなが関わって行って、何か象徴的なものができれば良いですね。例えば、大学コンソーシアム京都が事務局を務める「留学生スタディ京都ネットワーク」をさらに発展させていけば、国際都市京都の大学全体のメリットになるのではないのでしょうか。

**Q 貴学と大学コンソーシアム京都との今後の関わりについてお聞かせください。**

**[学長]**大学コンソーシアム京都が大学と京都市をつないでくださっているのは間違いないですし、その関係の中で「学まち連携大学」促進事業にも採択していただきました。もちろん、これからもっと連携関係を深めていきたいと思っています。地域連携の取り組みでは学生をサポートするスタッフも十分に準備していかなければいけません。地域連携というのは、もっとたくさん課題があって、もっとやるべきことが

あるのですが、残念ながら、一大学ではできることが限られてしまいますので、今までできなかったことも、他大学にも課題を広げて展開していくことを期待しています。

**Q 現代における大学の役割についてどのようにお考えですか。**

**[学長]**特に本学は人文社会科学系の大学なので、大学としての役割は何かということ考えたときに、真に社会に要求されている人間というのは何かとか、創造すべき社会は一体何なのかをきちんと考えなくてはいけないですし、その上で人間教育をしなればいけないと思っています。目の前の政治・経済などを担う人間も確かに必要で、例えば、GDPをどうやって上げていくのか、アジア諸国との外交をどうしていくのかといった課題に対応できる人材教育は当然大事なので、それはそれで求められるべきでしょう。しかし、そればかりを繰り返していった先にどんな未来が待っているのかを、誰かが見なければいけないし、誰かが提示しなければいけない。それも大学の責任だと思います。社会の方向とか、20年後、50年後、どういう社会であり、どういう形で人間としてあるべきなのかを提示するのは大学の重大な役割です。特に、人文社会科学系は、そういう像を模索して、提示していかないとけません。おそらく、京都は東京から遠いので、そういう役割を一番果たし得るんだと思います。中央から何か発せられたときに「違うんだ」と京都から発信し返すという形です。日々の政治の政所ではないことを幸いに、違う形の方向性から社会と人間像を提示する役割は、京都の大学にこそあるのではないのでしょうか。本学も、その1つになろうと強く思っています。

**Q 新しい試みを考えていらっしゃると伺いました。**

**[学長]**大谷大学が新しく変わっていくので、大谷大学を表現する新しいメッセージ、タグラインを作る動きが始まっています。4月頃までには発表する予定です。このメッセージは、学内の教職員有志でワークショップ、ブレインストーミングを何回も重ねて、そこから言葉を生み出そうとしています。本学がどんな大学で、学生の気質や、どういう風な教育をしたいのかというテーマでワークショップを重ねて、ようやく1つの言葉になってきつつあります。新しい言葉は、3学部（文学部、社会学部、教育学部）を象徴する短いものになる予定で、社会に向けた、今までにない表現のメッセージです。整い次第、公表しますので、お待ちください。

【取材日】2016年11月18日

大谷大学・大谷短期大学部ホームページ  
<http://www.otani.ac.jp/>

### インタビュー

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 副事務局長 西川 千嘉子  
公益財団法人 大学コンソーシアム京都 調査・広報事業部次長 岡野 和紀

## 「関西障害学生支援担当者懇談会」の開催

「関西障害学生支援担当者懇談会」（略称「KSSK」）は、大学の現状や課題を知る話題提供と、テーマごとに少人数に分かれて実施する分科会で構成しています。特に分科会では、何らかの答えを得るというスタンスではなく、担当者が抱える様々な悩みや疑問、また、支援の方法を聞くことで障害学生支援に関する気づきを得ることが出来ます。

さらに、同じ地域や大学の規模だからこそ共有できる情報を交換することで、現場の担当者がそれぞれのノウハウや問題意識を共有するとともに、大学間や担当者間のネットワークづくりに役立っています。

KSSKは2008年度から有志により開催されていましたが、2015年度（第16回KSSK）から大学コンソーシアム京都の主催となり、現在は関西圏の9大学が幹事校として企画・運営を担っています。2017年度も年2回の開催を予定しています。



少人数による分科会

## 「ノートテイク養成講座（初級編）」の開講

「ノートテイク」は聴覚障害学生の情報保障として、講義の情報を書き伝える手段ですが、支援者となるノートテイクの養成は、各大学においても指導方法やノウハウの継承、人材の不足など様々な課題があがっています。

大学コンソーシアム京都では、初めてノートテイク活動に取り組もうとする学生や教職員を対象とした初心者向けのノートテイク養成講座を、2004年度から京都市福祉ボランティアセンターとの共催で開講しています。講座では、聴覚障害者への理解に始まり、ノートテイクの知識修得や実践を通して、支援者育成に取り組んでいます。

今後はノートテイク養成講座に加え、「パソコン（PC）テイク養成講座」を開講します。（以下、お知らせ参照）。



ノートテイクの基礎を修得

### お知らせ

#### 「第18回関西障害学生支援担当者懇談会」を開催

【日時】2017年2月16日（木） 13:00～16:50（情報交換会 17:00～18:30）

【会場】キャンパスプラザ京都 4階 第4講義室

#### 「パソコン（PC）テイク養成講座（初級編）」を開講

【日時】2017年3月24日（金） 17:00～19:00

【会場】キャンパスプラザ京都 4階 第4講義室

詳細は大学コンソーシアム京都のWEBサイトをご覧ください。

→ <http://www.consortium.or.jp/project/dss> 大学コンソーシアム京都 障害学生支援 検索



## 大学コンソーシアム京都

# 「学まち連携大学」促進事業等 地域連携の取り組み

大学コンソーシアム京都では、京都市と協働して進めている事業がいくつかあります。  
その中から、2016年度より始まった「学まち連携大学」促進事業と  
「大学・地域連携サミット（愛称：学×地（ガッチ）リンク）」について、ご紹介します。

大学コンソーシアム京都は京都市と協働で、大学を挙げた地域連携の取り組みをこれまで以上に促進するため、2016年度の新規事業として地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発及び実施に取り組む大学を支援する「学まち連携大学」促進事業を実施しています。

選考の結果、次の6大学が採択されました。  
各大学の事業についてご紹介します。



2016年9月に行われた認定式

### 「学まち連携大学」促進事業 採択大学一覧

## 大谷大学

事業名 北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業

2015年度に開設された地域連携室（コミュ・ラボ）や短期大学部幼児教育保育科などで、これまで取り組んできた京都市北区の「中川学区の暮らし発見プロジェクト」「地域情報の発信プロジェクト」（RADIO mix KYOTOでの「大谷大学HAPPY HOUR」）、子育て支援事業などの実績をもとに、「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」を実施します。

この事業を通じて、「子育て支援」や「地域情報の発信」、「観光振興」等をテーマに、地域にお住まいの皆さんやNPO、地元企業、商店等と連携した取り組みを進めていきます。

## 京都教育大学

事業名 「京都に学ぶ・京都を発信する」をサポートする  
プチコンテンツ・セルフガイド制作

京都の地理・歴史・文学・生活・美術の魅力を、教員養成課程の学生が、小・中学生向けに取材・編集し、3分間の動画にしていきます。小・中学校の各教科の授業や、全国から京都を訪れる修学旅行生の事前学習などにも活用してもらえるような有用なコンテンツ制作を行う予定です。

教員養成の講義で培った経験を活かし、小・中学生にもわかる動画の内容構成と用語使用を心がけながら、3年間で150本のプチコンテンツを制作する事を目標としています。

## 京都女子大学

事業名 「『地域系女子養成プログラム』の構築  
— 地域を支える女性リーダーの養成をめざして —

京都女子大学では、地域にきめ細やかに寄り添い、女子大学の特性を生かして、子育て・教育・高齢者の支援、町内会活動支援など日常生活課題に視点をおいた地道な連携活動を積み重ねてきました。この実績を展開して、連携活動を教育課程に位置付け、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた女性地域リーダーとなりうる人材の養成を目指した「地域系女子養成プログラム」を構築します。

第1段階として2017年度には、連携活動の社会的意義を理論的に学ぶ入門科目と、活動への学生の主体的参加を促進する連携講座を体系化した「地域・産学連携科目群」を全学部全学年対象に開設します。また従来の活動に加えて、安心安全まちづくり支援や京都の産業支援など幅広い連携活動を正課内外で展開します。

さらに「京女ラウンドテーブル」を協定締結機関と共に結成し、行政や企業、市民間の交流を生み出す結節点としての役割を果たすことを目指します。

## 京都橘大学

事業名 山科・醍醐地域で「育ちあう、響きあう」  
地域連携教育プログラム

山科・醍醐地域で、これまで築いてきた地域連携の実績を元に、3つの基幹課題を設け、7つの教育プログラムを展開することにより、学生が地域と「響き合い」、地域で鍛えられ、地域に貢献できる人材として成長することを目指すものです。文社会系分野から、看護・医療・健康・福祉分野まで、多岐にわたります。長年取り組んできた山科区での地域文化の発掘や地域経済振興・まちづくりの事業や、伏見区醍醐中山団地における京都市、団地自治会との連携事業に加え、本事業を契機として、山科駅近辺に地域連携センターの「サテライト」を設け、学生の活動拠点を確保し、地域と学生が共に「育ちあう」仕組みを作ります。また高齢者や子育て支援など、現代社会の重要課題に対しては、看護・医療・健康・福祉分野で新規プログラムを立ち上げ、全学が一体となって地域課題の解決に取り組んでいきます。

## 同志社女子大学

事業名 「京町家を中核とした未来の京都まちづくりプログラム」

2004年度から、大学で継続的に実施してきた京町家での「町家講座」を、既存の大学正課内外の一連の教育プログラムと連携統合することでさらに発展させ、地域住民との交流や博物館との連携を通して、複合領域から展開する地域連携型の教育プログラムとして生まれ変わります。

京都の歴史的過程と現状を、歴史学や地理学、教育や文学、観光学など、学部・学科を横断した広領域からそれぞれの「京都学」の観点でとらえ、京都市内でのフィールドワークや地域住民とのワークショップを通して学生が主体的に、地域社会との間で双方向的に学習を行います。このようなプログラムを通して、復興支援教育の経験を踏まえた防災対応型地域連携社会のまちづくりについて、女子大学生の視点から将来に向けての提言を発信することを目指します。

## 龍谷大学

事業名 多世代・多文化協働による地域連携型教育プログラムの展開 — 学生と地域が共に学びあう「コミュニティベースドラーニング」の実現をめざして —

龍谷大学・深草キャンパスが所在する京都市伏見区を中心とした京都市南部の特徴を活かし、多世代・多文化交流によって学生もコミュニティも共に学びあい、相互の信頼関係を築けるような地域連携型教育「コミュニティベースドラーニング（CBL）：地域連携型学習」の構築を目指していきます。

正課・課外を通した多くのCBLプロジェクトを実施するために、すでに蓄積している正課・課外・研究・地域貢献の多様な地域連携シーズを拡充、整理し、教育プログラムとしてのニーズと地域のニーズ、双方をつなぐ「地域連携シーズバンク」を構築していきます。

加えて、CBLに関する啓発事業を活発に行い、一人でも多くの学生に地域デビューのきっかけを与え、主体的に地域連携活動に参画する学生を支援していきます。  
活動の進捗は、各大学のWEBサイトをご覧ください。

## 大学・地域連携サミット

（愛称：学×地（ガッチ）リンク）

京都市との協働により、市内における大学・学生と地域の連携事例を広く発信するとともに、地域連携活動に関わる大学・学生や地域団体等が交流する機会として、11月6日（日）に第1回目となる「大学・地域連携サミット」（愛称：学×地（ガッチ）リンク）を開催しました。

当日は、コミュニティデザイナー山崎 亮氏による基調講演の他、「学まち連携大学」促進事業採択大学による事例発表を行いました。またポスターセッションでは、京都市内で地域連携の活動に取り組む14の大学・学生・地域団体等が参加し、パネルによる事例紹介と意見交換を行いました。

それぞれの会場には、多くの学生や大学教職員、地域の方が来場し、大学・学生と地域の新たな連携の可能性や、さらなる活性化のヒントを見つけようと、参加者同士が交流を深める機会となりました。

なお、「学まち連携大学」促進事業と大学・地域連携サミットは、2016年度～2020年度にかけて行う予定です。



山崎 亮氏による基調講演



学まち連携大学 採択校による事業発表 ポスターセッション会場

### まちづくり事例集 WEBサイトのご紹介

京都府内の各大学で取り組まれている学生（大学およびゼミ・サークルなど）と地域や市民が連携・協働した取り組みをご紹介しているページです。大学コンソーシアム京都のWEBサイトからご覧いただけます。

▼まちづくり事例集ページ URL          
[http://www.consortium.or.jp/project/chiiki/machidukuri\\_jirei](http://www.consortium.or.jp/project/chiiki/machidukuri_jirei)

#### 主なカテゴリー

《テーマ別にご紹介しています。》  
①環境・エネルギー、景観、美化活動 ②安心安全 ③文化  
④教育 ⑤産業・観光 ⑥保健・福祉・健康 ⑦その他

#### 《施設開放・貸出》

一般の方を対象に、各大学で年間を通じて開放されている施設をご紹介します。

#### 《各大学における地域連携の窓口》

各大学において、大学・学生と地域とが連携・協働した活動を進めるために、窓口となっている部署をご紹介します。

## 大学コンソーシアム京都

# 国際事業の 取り組み紹介

## 英語で京都を Presentation / 留学生対象有給インターンシップ

大学コンソーシアム京都では、2015年度より、事務局を務める「留学生スタディ京都ネットワーク」を設置し、留学生誘致・支援を一層強化しています。現在は、ポータルサイトやSNSなどによる海外向け京都留学の情報発信、留学生有給インターンシップや、留学生就職支援・交流コミュニティによる就職のサポートを行っています。また、日本人学生の海外留学もサポートしています。今回その中から、2つの取り組みについてご紹介します。

### 新規事業① 「英語で京都をプレゼンテーション」

2016年度の新規事業「英語で京都をプレゼンテーション」は、キャンパスプラザ京都を会場に、抽選で選ばれた大学コンソーシアム京都加盟大学の学生20名を対象として行った、全6回の研修です。

この研修では、『「日本ってどんな国なの？」と海外の人に尋ねられた時に固まってしまうことがないように、京都や自国の文化を理解し、英語でプレゼンテーションできるようになる』ことを最終目標としていました。

研修内容はこれまでにないユニークかつ充実したもので、講義+伝統文化(茶道・華道)体験+毎回の英語プレゼンテーション+グループおよび個人の英語プレゼンテーションコンペ、といった盛りだくさんなものでした。

最終日には実際に京都で勉強している留学生も審査員に変わり、個人プレゼンテーションの優勝者を決めました。



### ▶ 研修内容 (全6回/場所:キャンパスプラザ京都)

2016年	
5月21日(土)	Ice Break・日本概論～日本について、英語で表現してみよう
6月4日(土)	京都概論～京都の様々なことを英語で表現してみよう
6月11日(土)	日本文化Ⅰ～茶道・華道を体験することで理解しよう
6月18日(土)	日本文化Ⅱ～伝統文化(歌舞伎・能・文楽)、サブカルチャー etc.

6月25日(土)	グループ英語プレゼンテーションコンペ
7月2日(土)	個人英語プレゼンテーションコンペ

### ▶ 研修発足の理由と結果

この研修は、加盟大学の学生が海外の留学から帰ってきたときのアンケートで「京都や日本のことを訊かれても知らないし、答えられなかった」という多くの意見から、企画が始まったものです。

京都や日本をより深く知り、英語で説明できるようになるきっかけになればと実施しました。

6回の研修のオブザーバーとして片山 環先生(京都外国語大学)をお迎えし、伝統文化は裏千家と池坊の先生から体験レクチャーを受けました。



初回～最終回まで、受講者が大学や学部を越えて協力しあい、仲よくなり、英語プレゼンテーションスキルを研鑽しあうという充実した研修となり、多くの大学が加盟する大学コンソーシアム京都ならではのプログラムを提供することができました。

### 【受講者コメント】

- ・普段出会えない方達と会えたこと、京都についてより深く勉強できたことは本当によかったです。
- ・茶道/華道は日本に住んでいてもなかなか体験できないことであり、大変楽しませていただきました。
- ・日本や京都の文化だけでなく、英語の表現方法やプレゼンのコツのようなことも学ぶことができました。

### ▶ 今後の展開

最終回が終わってからも、受講生からは「授業が終わったのが寂しい」「このクラスで受ける授業がとても楽しかった」など、名残惜しいという多くの声がありました。

今回の内容の充実とニーズの高さを受けて、この事業は2017年度以降も定員を拡大し、実施することを検討しています。

京都ならではの研修、英語と京都に興味のある多くの学生に受講してもらいたいと願っています。

### 新規事業② 「留学生対象 有給インターンシッププログラム」

「留学生スタディ京都ネットワーク(以下、ネットワーク)」の2016年度新規事業としてスタートした「留学生対象有給インターンシッププログラム」。京都の大学・短期大学や日本語学校、専門学校等で学ぶ留学生に、留学生の採用意欲の高い京都企業での就業機会を提供することを通じて、留学生と企業との相互理解を図り、卒業後の京都における留学生の採用促進と就職後の京都への定着を図ることを目的としています。

### ▶ この取り組みの特長

今回のプログラムでは、インターンシップが決定した留学生にネットワークから業務を委託している人材派遣会社に登録してもらった上で、受入企業に派遣するシステムを採用しました。就業時間は「80時間以上」という、ある程度長めの基準を設け、その対価として給与が支払われます。これは、給与が支払われることで、留学生自身の経済的な不安を軽減することに加え、派遣社員として就業し、受入企業の従業員の皆さんと同じ扱いで実務に従事してもらう狙いからです。一定期間、従業員の皆さんと同様に実務に取り組むことこそが、日本の企業文化、社内制度、日本人の価値観や人生観など、深い部分を理解する事につながります。これは日本や京都で働き続けたいか、どんな会社や職業を選ぶのか、留学生自身が選択する際の大きな指標になるはずです。またスケジュールの設定は、事務局が留学生と受入企業のスケジュールを個別に調整していきました。これによって、留学生が学業への影響を心配することなくインターンシップに参加することができ、企業側の負担を軽減することができました。

### ▶ 受入企業の対象とその狙い

今回のプログラムでは、受入企業を「京都の中堅・中小企業」に絞っています。日本人学生にも似た傾向はありますが、留学生は身近で自分が知っている大企業だけを対象に就職活動をしていく傾向が強くなります。今回、企業との交流会の場で、直接企業の担当者から話を聴き、希望する企業

を自ら選択してもらいました。また、事務局が志望した留学生一人ひとりと面接し、将来の希望、専門性、価値観などを丁寧にヒアリングした上で、受入企業とのマッチングを行いました。こうしたプロセスを経て自ら選択した企業で就業経験を積むことで、仕事への責任感が芽生えます。また、中堅・中小企業の規模でなければできない仕事や、他人の評価にとられない企業の魅力を感じてもらい、就職先を探す上でのポジティブな選択肢として京都の中堅・中小企業をまず認識してもらおうとしました。これにより、就職活動をする際に、選択の幅を広げることで、留学生が就職できる可能性は格段に高まり、結果として留学生の京都への定着、そして人材不足に悩む京都の中堅・中小企業の人材獲得にもつながると考えられます。

今回、マッチングの結果、15社に22名の留学生が派遣されました。まだ事業規模は小さいですが、確実に留学生、そして京都の中堅・中小企業の相互理解を深めるきっかけになっていると手ごたえを感じています。今回留学生から100名以上の応募があり、やり取りを通じて企業側の高い採用意欲も感じています。2017年度はさらに多くの留学生に本プログラムへ参加していただけるよう、広報活動や企業交流会の開催時期、研修内容の改善をさらに進めていきたいと考えています。



企業交流会の様子

### 留学生スタディ京都ネットワークについて

京都における留学生(外国人研究者を含む。以下同じ)の誘致及び受入体制の整備や留学生の知識・経験を、地域の国際化・活性化に活かすための仕組みづくりをオール京都で取り組み、「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力向上を図ります。

#### 【構成】

大学、短期大学、日本語学校、専修学校、企業、経済・業界団体、公的機関等(計89団体)

#### 【主な事業】

1. 留学生誘致プロモーション
2. 留学希望者や関連する国内外の学校・教育機関等からの相談対応
3. 京都で学ぶ留学生の相談対応・居住環境整備等を含む生活支援、日本語学習支援
4. 留学生の就業に向けた支援、卒業後の留学生のOBOG交流支援
5. 留学生と日本人学生、地域との交流支援
6. 各機関が行う留学生支援の総合調整
7. その他ネットワークの目的達成のために必要な事業

【設立日】2015年5月29日(金)

留学生スタディ京都ネットワークが運営する「STUDY KYOTO」のWEBサイトはこちら→ <https://www.studykyoto.jp/ja/>

# 大学コンソーシアム京都 2017年度事業の紹介

大学コンソーシアム京都では、2014年度より「第4ステージプラン」に基づき、5か年計画で事業を進めています。ステージプランも後半となった2017年度の各事業の取り組みをご紹介します。興味のある方はWEBサイトでcheckしてみてください。

## ● 単位互換事業

単位互換制度とは、他大学が提供する正規科目を履修し、その単位が基準に基づき自大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都では約50の大学・短期大学が参加し、日本で最大規模を誇ります。2017年度は、京都の独自性の高い単位互換科目として、2015年度から行っている世界文化遺産をフィールドに行う「京都世界遺産PBL(※1)科目」を充実する他、特色科目の開設をすすめて質的向上を図ります。

(※1) PBL = project based learning 課題発見解決学習



▲ 京都世界遺産 PBL 科目の実習風景 (2015年度)

受入先実習プログラムのさらなる向上や、大学と連携した学生の参加促進を図ります。

## ● 高大連携事業

高大連携事業では、高校・大学の連携・接続教育における国内最新動向の情報共有および事例研究や京都における取り組みの情報発信を目的として、「高大連携教育フォーラム」を実施しています。また京都府内の高校生・大学生を対象に「キャリア」の視点に重点を置いた企画として「まるっとく」を実施します。また、社会人ロールモデルの紹介や人生設計に関するワークショップをとおり、日々の学びの大切さを認識し、自身のキャリアを意識することを目的とした高大連携キャリア企画を検討し実施します。



▲ まるっとく in 網野

## ● 生涯学習事業 (京カレッジ)

大学コンソーシアム京都は1997年度から大学生の単位互換制度と連携した市民向けの「シティーカレッジ」を開講してきました。現在は京都市とともに、大学コンソーシアム京都加盟校の知的資源を地域に開放する生涯学習事業「京(みやこ)カレッジ」として、300を超える「大学講義」「市民教養講座」を提供しています。2017年度は受講希望の高い「京都学講座」と、加盟校が行うリレー式の教養講座「大学リレー講座」を充実し、市民の学ぶ意欲に応じていきます。



## ● FD 事業

FDフォーラムについては、参加する大学教職員・関係者のFDに対する意識を高めることを目的としたシンポジウムの開催や、加盟校を中心とする各大学の取り組み事例の発信および情報交換・交流の場を提供する企画を検討し、実施します。また、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みとして、各種階層別研修プログラムを実施します。



▲ FDフォーラム/シンポジウム

## ● 施設管理事業

京都市から管理を委託されている「京都市大学のまち交流センター」(愛称:キャンパスプラザ京都、2000年開館)の指定管理者(2015~2018年度)として、講義室や演習室の貸し出し、利用環境の整備他、施設の管理・運営について京都市と連携して適切に行ってまいります。

## ● インターンシップ事業

1998年度より全国に先駆けて行っている大学コンソーシアム京都のインターンシップは、現在、加盟校と連携した人材育成を目的とした「教育プログラム」として、230を超える受入先団体と協力しながら進めています。近年では短期実践型コースは振り返りと気づきを促進するカリキュラム改善を行い、また長期企画型コースではPBL手法による高い教育内容での展開を行っています。2017年度は、



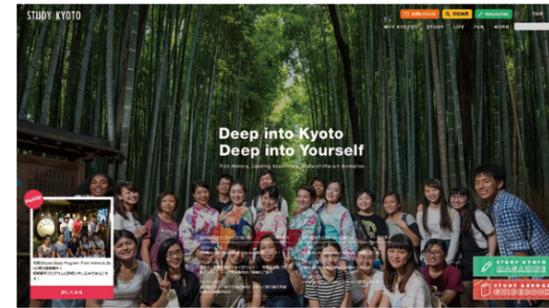
▲ SDフォーラム/基調講演

## ● SD 事業

SD事業では、加盟校の大学職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための様々な研修を実施しています。2017年度からSDが義務化されることを受け、より充実した研修内容を提供できるよう企画を検討し実施します。なかでもSD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、大学職員のスキル向上や大学の枠を越えた情報交流の場を提供することを目的とした「SDフォーラム」をはじめ、次世代の大学運営を担うプロフェッショナル職員の育成を目的とした「SDゼミナール」を引き続き実施します。

## ● 国際連携事業

大学コンソーシアム京都が事務局を務める産官学オール京都の「留学生スタディ京都ネットワーク」において、ポータルサイトやSNSなどによる海外向け京都留学の情報発信、留学生有給インターンシップや留学生就職支援・交流コミュニティよっての就職のサポートなどを行っています。2017年度についても動画や海外メディアなどを活用して、情報発信の充実を図ります。日本人学生の海外留学の促進については、2016年度から学生が英語で京都の魅力をプレゼンテーションできる研修を開始しましたが、申し込み多数につき2017年度は更に規模を拡大して実施する予定です。また、大学教職員向けの英語研修についても好評につき継続予定です。



▲ 京都留学ポータルサイト「Study Kyoto」

## ● 第15回京都学生祭典 学生実行委員募集中!

京都学生祭典は、学生の手で京都を盛り上げようと2003年から始まり、毎年10月、岡崎エリア(京都市左京区)をステージに繰り広げられる一大イベントです。本祭典は、大学コンソーシアム京都加盟校の学生らで構成する「実行委員会」が企画・運営を行い、京都府や市、経済界、大学がオール京都体制でバックアップしています。2017年度は、「京都文化力プロジェクト」といった文化・芸術のイベントとも連携し、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を発信していきます。



▲ 京都学生祭典実行委員(平安神宮前)

## ● 第20回京都国際学生映画祭 学生実行委員募集中!

京都国際学生映画祭は、関西圏の大学の学生で構成する「実行委員会」が企画・運営を行う日本唯一の国際学生映画祭です。国内外を問わず、学生が制作した優秀な映画・映像作品を多数上映し、今後の映画文化を担う新たな才能を発掘するとともに、学生映画の魅力や可能性を「日本映画発祥の地」である京都から発信し、京都の活性化と国際交流の場の創出をめざしています。



▲ 京都国際学生映画祭実行委員と入選監督(京都シネマ)

## ● 障害学生支援事業

障害学生支援事業の取り組みについては、4ページをご覧ください。

## ● 調査企画事業

事業部横断で共通の指標を用いたデータ収集で得られたデータを大学コンソーシアム京都内、及び加盟校と共有し、意見交換を行う資料とします。指定調査課題については、次期ステージプラン検討に活用できる調査となることを意識して、研究グループに対する支援や加盟校に対する調査報告会を実施します。

## ● 広報事業 京都学生広報部員募集中!

大学コンソーシアム京都WEBサイトのスムーズな更新・アクセス解析の強化、Facebookの効果的な活用を図ります。京都学生広報部による情報発信サイト「コトカレ」では、魅力あるコンテンツを制作し、ターゲットにしている中高生の読者の増加を目指します。大学コンソーシアム京都広報ワーキンググループでは、各事業部の課題を洗い出し、打開策を探るとともに、新たな広報企画とブランディングに繋げていける取り組みをします。



▲ 京都学生広報部 活動風景

## ● 都市政策研究推進事業

▶「京都から発信する政策研究交流大会」は、都市政策に関わる幅広いテーマの政策研究の発表を通じ、学生の学びと成長、大学を越えた学びの場を提供します。  
▶「学まちコラボ事業」では、学生の成長を支援する本事業の特性を強化するために、採択団体間の交流を活性化させる意見交換会や交流会を実施します。  
▶「大学・学生と地域による京都のまちづくり事例集」は、大学と地域の連携事例をまとめて大学コンソーシアム京都のWEBサイトで公開することで、地域連携の促進・情報の共有を図ります。  
▶「学まち連携大学」促進事業」では、地域と連携した教育プログラムを開発・実施するなど京都市内の各地域との連携を促進する本事業採択の6大学に対し、最大4年間、補助金を交付し、大学と地域の連携を促進します。また、「大学・地域連携サミット」(愛称:学×地リンク)では、大学・地域連携の事例を広く発信します。  
▶「大学の知を活かした多角的な市政研究事業」では、「文化を活かした京都の活性化」をテーマに「観光」「産業」「暮らし」「まちづくり」の4つの分野で研究ユニットを構成し、多角的な観点から調査研究を実施します。2017年度は、研究者及び京都市の関連部署が協議を重ね、京都市政の課題解決に向け、研究成果報告書を作りまとめます。



▲ 第12回京都から発信する政策研究交流大会



▲ 学まちコラボ 二次選考会

## 教育開発事業部

[ 単位互換事業 ]

### 充実開講! 単位互換事業「京都世界遺産 PBL 科目」

2017 年度の「京都世界遺産 PBL 科目」を開講します。加盟校で学ぶ学生を対象に、京都の世界文化遺産の所有者に協力をいただき、そこをフィールドとした課題発見解決学習プログラム (PBL) の単位互換科目です。2015 年度、2016 年度とのべ 200 名近くの学生が京都ならではの学びを体験しました。出願は各大学が設定する単位互換科目登録期間 (3 月下旬～4 月上旬) をお願いします。詳細は、大学コンソーシアム京都の WEB サイト (随時更新予定) もしくは 3 月上旬に公開されるシラバスでご確認ください!

#### 2017 年度開講科目 (京都世界遺産 PBL 科目)

科目名 (仮)	開講大学	世界遺産
コミュニティマネジメント特論 世界遺産と学ぶ課題発見・解決過程	龍谷大学	醍醐寺
世界遺産 PBL 講座 O2O マーケティングによる地域活性化	同志社大学	二条城
遺産情報演習 I (b) ～世界遺産醍醐寺プロジェクト活動をパブリック化する試み～	京都橘大学	醍醐寺
京都の世界遺産 PBL ～上賀茂神社の魅力を生徒の視点で発信する～	京都産業大学	上賀茂神社
「お山」の魅力を探る・伝える	京都文教大学	延暦寺
特殊講義 I 「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」	立命館大学	清水寺
特殊講義 II 「外国人観光客のための清水寺参詣曼荼羅 (現代版) をつくる」	立命館大学	清水寺
政策科学特別実習 I (京都の世界遺産 仁和寺)	立命館大学	仁和寺

※科目は変更することがあります。

## 調査・広報事業部

[ 指定調査課題事業 ]

### 2016 年度 指定調査課題 成果報告会

**テーマ** 大学での障害者差別解消へ向けたアクセシビリティと合理的配慮の DB の構築  
— 障害学生支援室連携組織の設立へ向けて—

**開催日時** 2017 年 3 月 22 日 (水) 18:30～

**場所** キャンパスプラザ京都 4 階 第 4 講義室

[ 学まちコラボ (大学地域連携創造・支援) 事業 ]

### 学まちコラボ 平成 28 年度 報告会

採択を受けた 18 の学生団体が、各地域で活動した 1 年間の成果を発表します。

**開催日時** 2017 年 3 月 26 日 (日) 10:00～

**場所** キャンパスプラザ京都

最新の取り組み・イベントのお知らせなどは、随時、大学コンソーシアム京都の WEB サイトで配信しますので、ご覧ください。

大学コンソーシアム京都 公式 WEB サイト

<http://www.consortium.or.jp/>

## 新企画 コンクイズ

大学コンソーシアム京都の歴史や身近なできごとをクイズ仕立てで、紹介していきます。答えは、大学コンソーシアム京都の WEB サイトに掲載します。

Let's check it out!

Q

大学コンソーシアム京都の  
ロゴマークは何をモチーフに  
しているのでしょうか?

- ① 着物の帯
- ② 鞠 (まり)
- ③ メビウスの輪



大学コンソーシアム京都 WEB サイトの  
QR コードができました!

こちらから、  
最新情報を  
ご覧ください。



公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下路

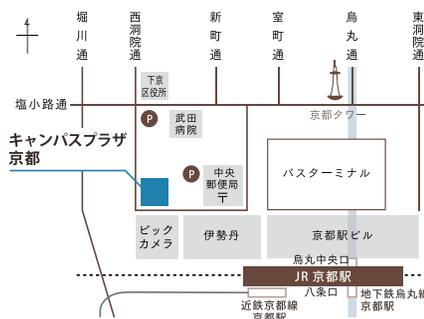
キャンパスプラザ京都

TEL: 075-353-9100

FAX: 075-353-9101

E-mail: [pr-ml@consortium.or.jp](mailto:pr-ml@consortium.or.jp)

ホームページ: <http://www.consortium.or.jp/>



大学コンソーシアム京都

